

PHOTONEXT2023 開催報告

1. PHOTONEXT2023 について



開催期間：2023年6月6日（火）～7日（水）

搬入日：6月5日（月）

展示会場：パシフィコ横浜 B ホール

業界団体併催セミナー会場：2F 会議室

出展社数と出展小間数：87社 208小間（テーブル出展含む）

来場者数：

・受付件数（受付で発行した入場証の実数※カッコ内は前年実績）

6月6日 5,093人（4,761人）

6月7日 3,683人（3,215人）

合計 8,776人（7,976人）

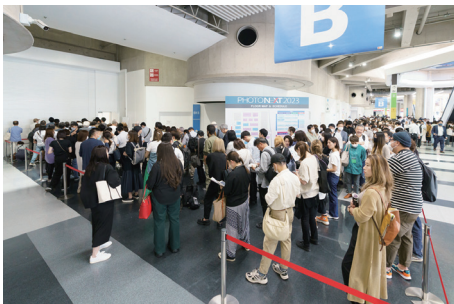
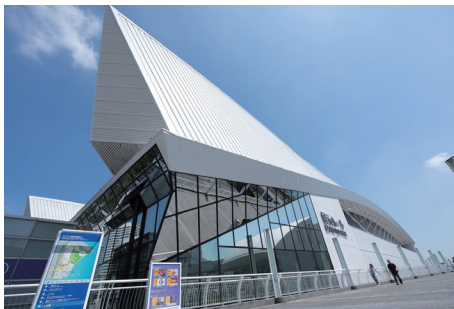
開催概要

・「PHOTONEXT2023」は、主催：株式会社プロメディア、主催団体：写真感光材料工業会、日本フォトイメージング協会、一般社団法人日本写真映像用品工業会により、上記の概要にて開催されました。

・「フォトグラファーズ&フォトビジネスフェア」のコンセプトを掲げ、「写真の撮影分野と写真関連商品の流通分野を対象に、市場の活性化と需要拡大、さらには展示会とセミナーを通じて撮影に携わるプロフェッショナルとビジネス関係者のレベルアップを図り、あわせて消費者に写真・映像の豊かな喜びを提供し、充実したライフスタイルづくりに貢献する健全な業界形成と発展を目指す」ことを目的に開かれました。

・PHOTONEXTの前身「スタジオ写真フェア」から数えて19回目の開催、PHOTONEXTとしては13回目の開催となった今回、衣装関係をはじめ13社の新規出展があり、多彩な顔ぶれとなりました。

・セミナープログラム数は約40本と、前年並みのボリュームとなりました。2日目の最後のプログラムまで聴講する来場者も多く、今回も滞留時間の長さを印象付けました。業界団体主催セミナーも、前回と同様の規模で実施しました。





・2023のテーマは「More Professional」。フォトスタジオやウェディング、学校写真などさまざまな分野が、コロナ禍により大きく変わったなか、選ばれるスタジオ・フォトグラファーとなるためには「差別化」が求められます。そこで「プロフェッショナル」をキーワードに掲げました。

・昨今、PHOTONEXTには若年層や女性層をはじめ、本格的に撮影や写真のビジネスに携わろうとする人たちが多く来場されています。本年は、そうした人たちが「選ばれるフォトグラファー」となるために、さらなるプロフェッショナルを極めるための場と位置付けました。



・5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されたことに伴い、同日をもって「パシフィコ横浜における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」が廃止されました。

・これに伴い同日以降の基本的な感染防止対策につきましては、主催者・参加者の主体的な判断に委ねられることとなったので、マスク着用は任意、手指消毒にはご協力いただくも、スムーズにご入場いただけるよう、会場出入口での検温はとくに実施いたしませんでした。



来場者層

・構成比(カッコ内は前回実績)は、写真館/スタジオが41%(33%)、フォトグラファーが23%(22%)、メーカー/商社/ラボが12%(15%)、一般/学生が9%(10%)、ブライダル関連が3%(5%)、デザイン/出版/印刷が4%(4%)、カメラ店/写真店/DPショップが3%(4%)、IT/通信関連が3%(4%)、衣装関連が1%(1%)、家電店/量販店が1%(1%)となりました。例年に比べて大きな変化はありませんが、前年以上に女性層と若年層の来場者が多く見受けられました。



取材プレス

・会期中は新聞社やカメラ雑誌社、写真業界誌(紙)など約20社に取材していただきました。

2. 展示会場 (B ホール) での開催イベント

出展社の展示

・展示ホールでは、最新の写真機材、アルバム、ソフトウェア、プリントサービス、関連用品などが展示されました。日本のプロフェッショナル写真分野に関わるメーカー、商社、ラボ、流通などの各社が参加し、写真館、写真店、DPショップ、フォトグラファー、ブライダル分野、家電量販店、出版、印刷、デザインなど幅広い層に、最新のビジネス機材&ソリューションの提案が行われました。





・コロナ禍前に出展していた企業が久しぶりにブースを構えたり、米国や韓国など海外の出展社もありました。前回よりも小間数を増やしたり、衣装や撮影機材をはじめとする新規出展社もあるなど、よりバラエティに富んだブース構成となりました。

メインステージ

・その年の PHOTONEXT を象徴する大きなテーマに基づいてセミナー講演を行うステージとして、前年に引き続き本年もメインステージと称して、AとBの2つに分けて繰り広げました。



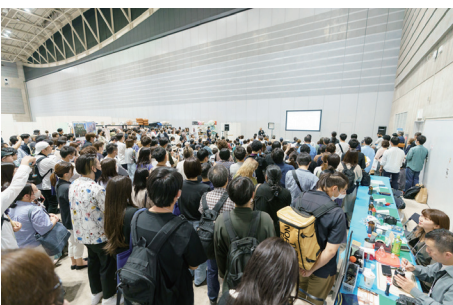
・基調講演は、昨今さまざまな分野で導入されている「メタバース」に着目したのがきっかけで「デジタルツイン」の可能性にスポットを当てました。コロナ禍を機にメタバースを取り入れて入社式や結婚式、成人式を執り行うケースが見られるようになったことが企画の背景にあります。



・セミナー企画をメタバースからデジタルツインにシフトさせたのは、メタバースは「必ずしも現実に存在するとは限らない」のに対して、デジタルツインは「現実に存在するものをデータ化し、現実のプロセスに結びつけて最適化を図るもの」だからです。これによってイメージしたのが、建築や工場の生産工程、さらにはスタジオ空間の構築です。



・今回の基調講演を務めた Matterport（マターポート）は建築世界のデジタルトランスフォーメーションをリードしています。同社の画期的な空間データプラットフォームは建物をデータ化、空間の価値とアクセシビリティを高めています。177カ国以上の何百万もの建物が同社のデジタルツインとして生まれ変わり、計画、建設、運用から文書化、鑑定、マーケティングまで、建物のライフサイクルのあらゆる部分を改善してきました。



・メインステージでは、デジタルツインを見たことも聞いたこともない来場者でもわかりやすくイメージできるように、展示ホール内でのデモンストレーションを交えながら高精細かつハイスピードで構築されるデジタルツインの世界観を体験いただけるようにしました。

セミナールーム

・出展社が主体となって行う公開セミナーは、単なる自社製品のPRを行うのではなく、外部講師を招いて実施することで、多くの来場者を吸引しました。本年は7社がエントリーし、撮影テクニックを中心とした最先端のフォトビジネスに関するセミナーが行われました。

・さらに主催者企画として、2本のセミナーも実施。顧客の笑顔を引き出す撮影ノウハウから世界的に評価されるデジタルアート作品の表現技法まで、メインステージと同様に有料クラスの内容を取り入れました。



アウトレットコーナー

・ 出展社が現行品以外の商品を出品する人気の物販コーナー。本年は昨年より5社多い23社が出展し、前年と同様、撮影機材や撮影用小物のほか、振袖やドレス、子供服などの衣装も多数販売され、お買い得商品を求める来場者を中心に、2日間とも賑わいを見せました。



ギャラリー

・ 本年の新たな展示企画としては、公式アンバサダーやセミナー企画と連動した現代アート展、「あなたにとって家族写真とは？」をテーマとした参加型の「家族写真プロジェクト企画展」を実施しました。さらに毎年、大勢の来場者から注目を集めている「こどもとかめら写真展」と「日本写真館賞受賞作品展」も繰り上げられました。



公式アンバサダー&応援テーマソング

・ 公式アンバサダーは、夢を追いかけ続けて、さまざまなジャンルで活動する人たちを、写真を通じて応援したいと考えて企画。たくさんの応募のなかから、厳正な審査を経てグランプリ（1名）と準グランプリ（5名）を決定しました。

・ 「文明開花」「レトロモダン」をテーマに、昨年のNAPAプリントコンペでグランドアワードを受賞した小林鉄斎氏が撮影企画を担当。グランプリ受賞者が公式ビジュアルとして案内パンフレットやポスターを飾り、さらに会期中は屋外サインにも掲示、準グランプリも雑誌に掲載されるなど、イベントの盛り上げに貢献しました。



・ 最終日にはメインステージにて表彰式を実施。準アンバサダーによるスペシャルステージ（日本舞踊）、今回の応援テーマソングライブも行われ、華やかに締め括りました。

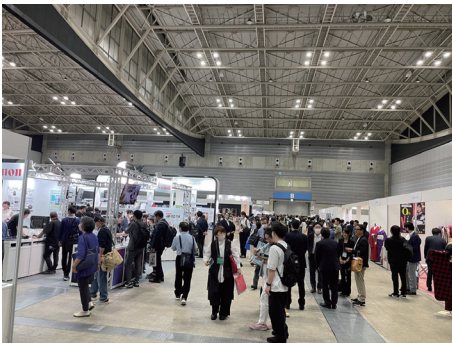
有料セミナー

・ 本年は4本に厳選して実施。話題のTikTokを軸としたSNS集客策や画期的なスタジオ作り、ニューボーンフォト関連では生花を取り入れたハイクオリティな撮影、安全面を考慮したスタジオ・サービス展開など、充実した学びの場となりました。



業界関連セミナー

・ 以上の各セミナーのほかに、業界関連団体主催のセミナーも併催。一般社団法人日本写真学会と写真感光材料工業会主催セミナーは6月6日に開催され計7セッション、同日に開催された日本フォトイメージング協会主催セミナーは計3セッションを行いました。



3. その他

後援・特別協賛・協力

・今回は次の開催支援をいただきました。

後援：横浜市 東京都

特別協賛：日本営業写真機材協会

協力：カメラ記者クラブ／公益財団法人国際文化カレッジ／全国記念写真事業協同組合／全日本写真材料商組合連合会／一般財団法人日本カメラ財団／公益社団法人日本広告写真家協会／公益社団法人日本写真家協会／一般社団法人日本写真学会／協同組合日本写真館協会／公益社団法人日本写真協会／日本写真芸術学会／一般社団法人日本写真著作権協会／一般社団法人日本写真文化協会 ※ 50 音順

2024 年に向けて

・次年度の開催は、パシフィコ横浜 B ホールで、6 月 11 日（火）～ 12 日（水）の 2 日間、搬入日は同 10 日（月）に決定いたしました。

・主催および主催団体は、定期的に月 1 回のペースで実行委員会を開いて開催の準備活動を行ってきました。引き続き実行委員会での各種企画立案、準備作業を中心にして、さらに充実したフェア開催を目指します。